

令和7年度県中域内地域連携担当教職員等研修会



6月26日(木) 13:30~16:00 オンライン

出席者数 75名 小学校28名 中学校7名 義務教育学校3名 県立学校8名
特別支援学校5名 市町村行政担当者10名 地域コーディネーター5名
こども園1名 福島県事務研究会6名 教育事務所1名 一般1名

《実践発表》

令和6年度「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進」に係る
文部科学大臣表彰受賞

常葉幼稚園・小中学校運営協議会 会長 増田英子 氏

○ 熟議

熟議というツールを使いながら、教師と保護者と地域の思いを共有する。

○ 幼稚園・小中学校の地域学校協働活動

地域の方が積極的にボランティアとして参加するだけでなく、生徒たちによる地域への支援を行っている。学校も地域も『WIN-WINの関係』である。

○ 現在の学校と地域、保護者の関係

『学校は楽しい場所』である。熟議を通して、地域の人、学校、保護者が気持ちを一つにして活動している。

《講演》

「基礎から理解する『学校を核とした地域づくり』」

一般社団法人とちぎ市民協働研究会 代表理事 廣瀬隆人 氏

○ 地域づくり

「学校を核とした地域づくり」も「地域とともにある学校」も、最終着地点は『地域づくり』にある。学校の教育活動を支援したり、子どもの健全育成を図ったりしながら、地域の大人同士のつながりをつくる。

○ 良い学校は良い地域にある

地域が落ち着いて人のつながりがしっかりしていると、子どもも落ち着いてくる。地域の良質な大人と子どもたちが会うことで教育効果を高めることができる。つまり、『良い学校は良い地域にある。』

○ 新しいことをはじめめるのではない。新しい気持ちではじめることである

特別活動と地域づくりは深い関係にある。小学校の特別活動では「多様な他者と協働する、人間関係合意形成、自主的実践的な人間関係の形成」といわれている。これらは、まちづくりを説明する言葉ともいえる。生徒会活動、部活動、あいさつ運動、文化祭、修学旅行など、今、学校で行っていることすべてが、地域づくりの基礎となる。『新しいことをはじめめるのではない。新しい気持ちではじめることが大切である。』

○ 野望と妄想と欲望

地域連携教職員は何をすればいいのか、地域コーディネーターは何をすればいいのかという質問がよくある。何をすべきかというよりは、何をしたいかが大事である。地域づくりは、何をしたいかという『野望と妄想と欲望』が必要である。

○ 子どもの笑顔が見たい

『子どもの笑顔が見たい。』子どもの笑顔は、黄金の価値がある。大人を元気にしてくれる。子どもに関わることを通じて、大人の健全育成を図ることができる。

